

施策番号	1901		
施策名	市民だれもが参加できる「学びのネットワーク」の拡充		
概要	生涯学習関係機関・団体との連携を密にし、京都ならではの豊富な学習資源を相互に結びつけるとともに、市民に身近な学びの拠点の充実・活用を図る。		
担当局・部室	教育委員会・生涯学習部	共管局・部室	
上位政策	19 生涯学習		
施策に関する 主な分野別計画等			

### 施策の評価

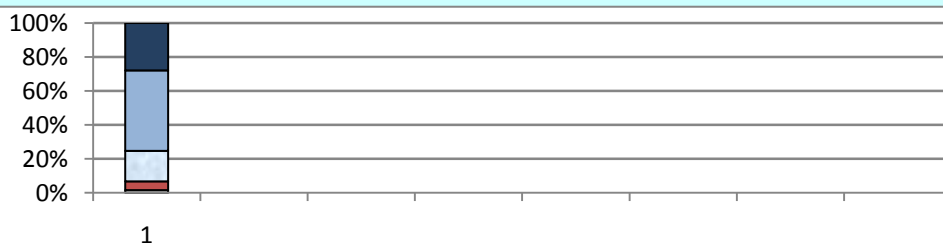
#### 1 客観指標評価

指標名	年度	23年度	24年度評価					
			前回値	最新値	目標値	達成度	評価	指標の ウェイト
1 学校における地域の学びの場の創出(箇所数)	-	a	23	43	40	107.5%	a	1.00
2 京都市図書館利用登録者数(万人)	-	a	43	43	43	100.0%	a	1.00
3 -	-	-	-	-	-	-	-	-
4 -	-	-	-	-	-	-	-	-
5 -	-	-	-	-	-	-	-	-
6 -	-	-	-	-	-	-	-	-
		a	客観指標総合評価				a	

#### 2 市民生活実感評価

\*この評価は、毎年5月頃に実施している京都市市民生活実感調査のアンケート結果を基にしています。

設問	24年度回答					有効回答 者数	評価
	そう思う	どちらかと言 うとそう思う	どちらとも 言えない	どちらかと言 うとそう思わ ない	そう思わ ない		
1 京都には、大学や博物館、神社仏閣、企業、NPOなどが提供する学習機会が豊富にある。	146 27.9%	248 47.4%	94 18.0%	27 5.2%	8 1.5%	523	a
2 -							-
3 -							-
4 -							-
5 -							-
						市民生活実感調査総合評価	a



- そう思う
- どちらかと言うとそう思う
- どちらとも言えない
- どちらかと言うとそう思わない
- そう思わない

### 3 総合評価(客観指標総合評価+市民生活実感調査総合評価)

A	施策の目的が十分に達成されている					23 年度	A
	重み付け	<input type="checkbox"/> 客観指標	a	<input checked="" type="checkbox"/> 市民の実感	a		
(重み付けの理由) 多彩な市民のニーズに応えられているかは、客観指標よりも実際に利用されている市民の実感に重みを付けるほうが適切であるため。						年 度	-
(原因分析) ・学校が地域の学びの拠点として定着しており、学校・家庭・地域が連携して生涯学習の取組が進められている。 ・図書館利用登録者数の増加は、夜間開館実施館の拡大、オンライン化による一体化(全館間で予約・取寄せ・貸出・返却が可能)、インターネットでの蔵書検索、地下鉄駅への返却ポストの増設などのサービス利便性の向上によるところが大きい。 ・市民生活実感評価についてはa評価となり、身近な学びの場の充実を含め、京都の都市特性を生かした多種多様な学習機会の豊富さを市民の方にも実感いただけている。							

#### 今後の方向性の検討

#### <この施策を構成する事務事業>

	事業名	事業費の状況(千円)		24年度事務事業評価結果 における目標達成度評価	担当局
		23年度 決算額	24年度 予算額		
1	京都市歴史資料館	63,131	64,334	良い	行財政局
2	女性研修	46,521	44,981	良い	教育委員会
3	生涯学習情報提供システム	14,806	10,248	かなり良い	教育委員会
4	生涯学習市民フォーラム	5,462	5,627	かなり良い	教育委員会
5	やましなの家運営費	6,181	5,827	かなり良い	教育委員会
6	京都市生涯学習総合センター(京都アスニー)	290,120	272,470	良い	教育委員会
7	京都市生涯学習総合センター山科(アスニー山科)	115,108	118,018	良い	教育委員会
8	京都市図書館	1,825,905	1,759,543	良い	教育委員会
9	京都市学校歴史博物館	69,477	64,839	良い	教育委員会
10	みやこ子ども土曜塾	76,556	74,170	かなり良い	教育委員会
11					
12					
13					
14					
15					
16					
17					
18					
19					
20					

\*予算額には人件費及び施設管理に係る経費を含みます。

#### <今後の方向性>

・地域に開かれた学校づくりや市民にとって利便性が高い図書館を目指し、システム更新によるサービスの向上など、最も身近な学びの拠点として、その機能の充実に努めることにより、地域の生涯学習活動の活性化を図る。  
・生涯学習の情報検索サイトのリニューアルや、生涯学習関係団体相互の連携と情報共有を進めることにより、幅広い世代のだれもがいつでもどこでも学び続けることができる環境づくりを推進する。

施策名	1901	市民だれもが参加できる「学びのネットワーク」の拡充
-----	------	---------------------------

指標名	学校における地域の学びの場の創出（箇所数）
-----	-----------------------

担当課	生涯学習部生涯学習推進担当	連絡先	251-0410
-----	---------------	-----	----------

**1 指標の説明**  
 学校と保護者、地域住民が協力の下、市立学校等にピオトープやベンチテーブル等、ふれあい交流活動や開かれた学校づくりを促進する環境を手作りで製作・整備し、地域の学びの場を創出する「学校ふれあい手づくり事業」の実施箇所数

**2 指標の意味**  
 市民ぐるみで子どもたちを育むための地域の参画・協働による学びの場の創出状況を示す指標

**3 算出方法・出典等**  
 出典：事業担当課調べ

**4 数値**

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度
数値	23	43	20箇所増	40	平成32年度の目標値200箇所に向け当該年度に達成すべき数値。	107.5%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値	-	200	32年度	21.5%	学校園総数の約7割相当箇所での実施を目標とする。

**5 評価基準**  
 最新数値の目標値に対する達成度が  
 a：100%以上  
 b：80%以上～100%未満  
 c：60%以上～80%未満  
 d：40%以上～60%未満  
 e：40%未満

**6 基準説明**  
 100%以上をa，以下20%刻みで基準を設定した。

**7 評価結果**

	23	24
-	a	a

指標名	京都市図書館利用登録者数（万人）
-----	------------------

担当課	中央図書館	連絡先	802-3133
-----	-------	-----	----------

**1 指標の説明**  
 京都市立図書館の利用登録者数

**2 指標の意味**  
 京都のまち全体が学びの場となることをめざして、市民に最も身近な学びの拠点である図書館の活用状況を示す指標

**3 算出方法・出典等**  
 算出方法：京都市立図書館20館の利用登録者数の合計  
 出典：事業担当課調べ

**4 数値**

	前回数値	最新数値	推移	目標値		
	22年度	23年度		数値	根拠	達成度
数値	43	43	増減なし	43	平成32年度の目標値（50万人）に向け当該年度に達成すべき数値。	100.0%

	全国順位	中長期目標			備考
		数値	目標年次	達成度	
数値		50万人	32年度	86.0%	21年度実績の10万人増

**5 評価基準**  
 最新数値の目標値に対する達成度が  
 a：100%以上  
 b：90%以上～100%未満  
 c：80%以上～90%未満  
 d：70%以上～80%未満  
 e：70%未満

**6 基準説明**  
 100%以上をa，以下10%刻みで基準を設定した。

**7 評価結果**

	23	24
-	a	a